

1. 評価結果概要表

平成 20 年 5 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401798		
法人名	株式会社 日 総		
事業所名	ふれあいの里 グループホームとみおか		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15 (電 話) 011-695-3003		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年3月28日	評価確定日	平成20年5月12日

【情報提供票より】 (平成 20年 3月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18 年	3 月	17 日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	15 人	常勤	15人	非常勤 人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円		
その他の経費(月額)	水道光熱費	24,000円	冬季暖房費 9,000円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要 (3月 28日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名	
要介護 1	1 名	要介護 2	8 名			
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名			
要介護 5	1 名	要支援 2	名			
年齢	平均	82.5 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	紺野整形外科クリニック、星置駅前内科医院、どうかい歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体組織は多くの事業所を運営し、積み重ねた経験を活かして15棟目に「グループホーム とみおか」を開設した。バリアフリー・ユニット内にトイレが4箇所・オープンキッチン・床暖房・木造の温もりなど、利用者の暮らしを考慮した、明るく開放的な造りとなっている。運営者は、経営母体の企業の特徴を活かし、高齢者に豊かでバランスの採れた食生活の提供を理念として掲げ、職員も共有して実践されている。毎週の訪問診療・24時間対応の医療機関も確保されている。職員のコミュニケーションは良好で、利用者とは家族のような関係が築かれており、ゆったりと穏やかな日々の暮らしが伺える。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題である事業所独自の理念の文章化・地域との交流や啓発は、取り組みまれているが実現に至っていない。地域密着が重要視されているグループホーム運営においては、これらの課題解決が求められる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員個々に自己評価し、管理者がまとめて作成している。評価により見出された課題は、管理者・職員が共有して検討し具体的改善にむけて取り組む姿勢があり、今後に期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 管理者は運営推進会議の目的や必要性を理解しているが、会議は開催されていない。運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。会議の開催を重要課題として、早い時期に取り組まれることを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム便りは発行していないが、毎月金銭の報告をし、家族の来訪時には意見や要望などを聞いてミーティングで検討し、サービスの質の向上に活かしている。事業所内部に苦情相談窓口、外部にも苦情申し立て機関を設けている。母体組織には苦情対策委員会を設置して解決に当たっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的な地域との交流に努め、利用者が地域の一員として暮らし続けることを支える取り組みが求められる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立以来の事業所独自の理念があり、玄関やスタッフルームなどに掲げ、日々ケアに取り組んでいるが、地域密着型サービスの意義が盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスとして、住み慣れた地域でその人らしい暮らしの継続が求められていることから、地域生活支援を目指す理念を作り上げる事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕の申し送りや毎月のミーティングなどで理念を共有し、更に確認し合い、具体的な目標を掲げてその実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者・職員は利用者が地域の一人として暮らし続ける大切さを理解し、町内会に加入はしているがそれ以上の交流が持たれていない。	○	地域密着型サービスの実践の為には、町内会活動や行事に積極的に参加し、地域住民との関わりを深める取り組みが求められる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員でそれぞれ自己評価を行い、管理者により作成されている。評価により見出された課題は、ミーティングなどで話し合い改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営者をはじめ管理者、職員は運営推進会の意義や役割を理解していて、すでに設置されているが、現在においても会議は開催されていない。	○	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。会議の開催を重要課題として、早い時期に取り組みれることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の管理者会議に参加している。	○	管理者会議だけでなく市の担当者と連携を図り、問題解決の為に情報を提供して、サービスの質の向上に努めることが望ましい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りなどは発行していないが、利用者一人ひとりの金銭出納報告を領収証と共に毎月送付している。家族の来訪時には、日頃の暮らしぶりや健康状態などを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは日頃よりコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気作りに努めている。家族からの意見・苦情はミーティングなどで検討し、サービス向上に活かされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者を担当する職員を決めて支援している。母体組織内の異動や離職などのやむを得ない場合は、利用者にも前もって説明して納得してもらえるように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修は実施されているが、フォローアップの為の研修は取り組まれている。	○	ケアサービスの質の確保と向上の為、全職員に研修参加への機会を確保する取り組みが求められている。母体組織による、各ブロックでの職員育成をマニュアル化する計画があり、今後が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議に参加し他法人事業所との情報交換などをして、同業者との交流に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の場合には、利用者・家族に見学して頂き、事業所の雰囲気馴染んで頂いてから利用開始に至っている。職員が、入院先の病院へ面会に行くこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の思いに共感し、支え合って暮らす大切さを理解している。日々共に過ごす中で、人生経験豊かな利用者から教えられる場面が多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のこれまでの生活歴や家族からの情報を基に、思いや意向の把握に努めている。日常的にも本人の表情や行動から希望などを汲み取れるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員を決めて支援している。毎日の気付きや状態の変化は職員で共有して話し合い、家族の意見も反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に見直しを行っている。変化に応じてはその都度全体で話し合っ、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて通院介助や日用品の買い物、24時間対応の医療機関の確保など、安心した暮らしの実現の為に、多機能性を活かした支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望する医師による受診となっている。協力医による訪問診療を週一回実施し、連携医療機関の看護師は24時間対応となっている。通院・受診は家族が同行しているが、職員が支援することもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における対応の指針があり、入居時に利用者・家族に説明して了解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を良く理解しており、話し方は自然で優しく、尊厳を傷つけない対応となっている。一人ひとりのプライバシーへの配慮も成されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った一日を過ごしてもらえるように支援している。散歩や買い物に行きたい人・自室でゆっくりしたい人など個別の対応を実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	経営母体である企業の特徴を活かして利用者の健康・季節感・嗜好などを考慮した献立を提供している。職員と共に下ごしらえ・下膳・食器洗いなど一人ひとりの能力に応じて行っていた。共に食卓を囲み、職員は介助の必要な利用者をさりげなく支援していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、利用者の希望や体調を考慮して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことを把握して、掃除・料理・食器洗い・園芸など能力に応じて、役割を持ち出番があるように支援している。七夕には子供達に寄ってもらい、飴をあげる行事に参加して楽しんだこともある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員で行事企画担当を決めて、季節の行楽行事を企画し外出の機会を多くしている。日常的には希望により散歩、買い物など出掛けしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を見渡せる位置にスタッフルームがあり、見守りがしやすい。夜は施錠しているが、日中は開放している。安全の為にユニット玄関ドアには、出入りが分かるように鈴を付けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対応マニュアルを作成し、緊急時連絡先を電話前に掲示してはあがるが、管轄の警察署・消防署とは連携がとれていない。	○	利用者の安全・安心の為に、事業所全員での定期的な避難訓練や、地域の人々・警察署・消防署等と連携を図りながら、協力体制を築くことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体組織の管理栄養士によってカロリー計算された献立である。一人ひとりの水分摂取量・食事量や排泄を記録し、体調の変化に対応出来るように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	積み重ねた経験を活かして新築された事業所は、バリアフリー・エレベーター・木造の温もり・家庭的なオープンキッチン・トイレや浴室の使い勝手が良いなど、利用者の暮らしを考慮し、明るく広々とした共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の使い慣れた家具や写真・テレビなどを持ち込み、寛いで過ごせる居室となっている。		

※  は、重点項目。